

○ 委員長報告

2月定例本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和8年2月定例会

農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、柑橘類の生産・販売状況と樹園地の基盤整備についてであります。

このことについて一部の委員から、本年産柑橘類の生産・販売状況はどうか。また、樹園地の基盤整備に、今後どのように取り組むのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、温州みかんや「紅コレクション」等の中晩柑類いずれにおいても、生産量が前年に比べて増加見込みであるほか、販売面では、着色遅れにより温州みかんの出荷が中晩柑類の販売時期に重なる状況が改善されており、販売単価も堅調である。

また、柑橘類の生産を支える樹園地の防災力や生産力の強化を図るため、西日本豪雨で被災した再編復旧4地区に加え、県内7地区で樹園地の再編整備に取り組んでおり、頻発・激甚化する自然災害など、産地を取り巻く環境が厳しさを増す中、将来にわたり産地を維持・発展させるためにも、災害に強く生産性が高い基盤づくりに取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第2点は、全国植樹祭の開催に向けた準備状況についてであります。

このことについて一部の委員から、本年5月の全国植樹祭に向け、これまでの準備状況と今後の取組はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、開催まで60日余りとなり、県職員1,500人規模の実施本部を設置して、本番に向けたリハーサル等の準備も進めている。式典会場では、「お野立所」の建設工事も順調に進み、県産食材をふんだんに使用したおもてなし弁当のメニュー選定や、60年前の前回大会で植樹した木材を使ったベンチや大会記念品の製作も進めている。

また、天皇・皇后両陛下には、全国植樹祭への御臨席にあわせて、本県の地方事情を御視察賜ることとしており、本県ならではの御視察となるよう、宮内庁等と協議を重ねている。今後とも、関係機関と連携しながら万全の準備を進

めていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、日本一の養殖マサバ産地づくりプロジェクト事業についてであります。

このことについて一部の委員から、養殖マサバの成育状況や消費者の反応、また、今後の見通しはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、完全養殖マサバは、アニサキスなど寄生虫の問題が極めて少ないことが付加価値となり、高単価での取引が期待されている。宇和海の3海域で約6万5,000尾が養殖されており、昨年12月に愛南町で初出荷されたマサバは、町内に加え関東方面にも出荷され、消費者からの評価は非常に高かったと聞いている。

今回の出荷事例をベースに、今後は、地域ごとの効果的な出荷手法を検討するとともに、種苗については30万尾を最終目標に生産拡大し、日本一の養殖マサバ産地を目指して尽力していきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・温暖化等の気候変動対策
- ・農産物のブランディング
- ・ひめの凧の産地強化支援
- ・林業躍進プロジェクト
- ・真珠生産に関する現状等

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。